学校番号 C2101　桃谷（通）　　令和2年度 国語科

科目名 ：	現代文Ｂ	単位数 ： 4 単位	必要スクーリング出席回数： 4 回
使用教科書 ：：高等学校 改訂版 標準現代文Ｂ （第一学習社）			
学習書 ・副読本 ：：同準拠学習書 （ＮＨＫ出版）			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	12 枚	4 枚	4 枚	4 枚
スクーリング [S]	16 回	6 回	5 回	5 回
テスト [T]	2 回	○	×	○
その他 （課題・実習等）				

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

「現代文」は明治以後の「小説」「随筆」「評論」「詩」等を取り上げます。それは、今私たちが使っている日本語で書かれたものです。「読むこと」は、「知ること」であり、「考えること」でもあります。知らない言葉に出会ったら、辞書で積極的に調べてみましょう。普段の生活の中で「本（文章）を読む」ことも大切です。できるならば声を出して読んでみましょう。好奇心を旺盛にして、「現代文」の世界を楽しんでください。

2 学習の到達目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り豊かにする態度を養う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b ：話す・聞く能力	c ：書く能力	d ：読む能力	e：知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりしてることで、自分の考えを深めている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身につけている。
評価方法	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査	・観察（スクーリング） ・記述の点検（レポート）	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期考査

・学年末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	e	単元(題材)の評価規準	評価方法
1範囲	新しい出会いと発見	①随筆「新しい地球観」 ②評論「情けは人の・・・」 ③小説「相棒」 ④評論「僕らの時代のメディアリテラシー」	○	○	○	○	○	a:教科書や学習書を適切に用いてレポートに取り組み、期限を守って提出している。 b:指導者の指示を的確に聞くことで、問題の取り組み方を考えることができる。 c:レポートに取り組む際は、教科書や学習書・辞書等を参照し、適切な表現を用いて記述することができる。 d:レポートに取り組む際、必要に応じて、学習書・辞書・資料を正しく参照することができる。 e:基礎的な漢字や語句・慣用句を習得し、さまざまな文章を的確に理解することができる。	・レポート ・定期考査
2範囲	人間を見つめる	①小説「話を聞かせて」 ②評論「コミュニケーション文化の文化」 ③④小説「バグダッドの靴磨き」	○	○	○	○	○	a:教科書や学習書を適切に用いてレポートに取り組み、期限を守って提出している。 b:指導者の指示を的確に聞くことで、問題の取り組み方を考えることができる。 c:レポートに取り組む際は、教科書や学習書・辞書等を参照し、適切な表現を用いて記述し、自分の考えを深めることができる。 d:レポートに取り組む際、必要に応じて、学習書・辞書・資料を正しく参照し、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 e:漢字や語句の意味・用法を理解し、語彙を豊かにする。	・レポート
3範囲	人間と想像力	①小説「ナイン」 ②評論「食と想像力」 ③小説「卒業」 ④評論「経験の教え」	○	○	○	○	○	a:教科書や学習書を適切に用いてレポートに取り組み、期限を守って提出している。 b:指導者の指示を聞くことで、問題の取り組み方を考えさせる。 c:レポートに取り組む際は、教科書・学習書・辞書等を参照し、適切な表現を用いて、自分の考えを効果的に記述することができる。 d:レポートに取り組む際、必要に応じて、学習書・辞書・資料を正しく参照し、自己の考え方を深め、発展させることができる。 e:漢字や語句の意味・用法を理解し、正しく効果的に使用することができる。	・レポート ・定期考査

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：話す・聞く能力　　c：書く能力
d：読む能力　　e：知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関わる観点には◎を付している。